

●地域説明会 5会場連続開催 無事に終了する スタッフ延べ41人が会場準備や収納にそして解説に大奮闘

今年で3回目となる地域説明会は、これまで里山の会が取り組んできたイベントや調査観察などを映像化できているビデオなどを用意してリクエストによって上映に取り組みました。一般新聞でも詳しく報道案内を頂きましたので、リクエストをする方もありました。しかし世話をするスタッフの皆さんもこういった映像が存在していたのか、という場面もありました。特に雨天などの場合は気分が落ち着くのかゆっくりされる皆さんがおいでのようでした。近頃は多くの場面で写真や動画の記録が取りやすい時代に変化しています。それで21世紀は映像の時代ともいわれてテレビの映像もさらに美しくなってきました。時代が大きく変化しようとしているとき、紙による説明形式では一般受けしていかないのではないかと感じました。特に紙によるポスターなどには内容も展示表現にもっと工夫することが必要と感じました。

●15日は木津川市「泉ホール」で18人が来所

木津川市は激しく宅地開発がすすめられJR駅裏にそびえていた鹿背山までの山がすっかりはぎとられ、昔の面影はなくなりました。木津川をまたぐ巨大な橋が建設され、24号線のバイパスを担うかのような新道路が開通間近の様子が見られます。しかし会場付近には田んぼが広がり新築の家が旧村に寄り添うような景色でした。当日は社会福祉関係者のイベントとお茶会が計画されていました。それでももう少しにぎやかになるだろうと期待していましたが、いたって静かな利用状況でした。朝から雨が降る悪天候だったので人の寄り合いは低調でした。それでも正午過ぎにドカッと来訪者があって、一度に賑やかになりました。一通り展示物を見てもらった後、大釜さんにやましる大水害の記録ビデオの上映を行っていただきました。しっかりと鑑賞が行われました。67年前の大水害の体験記録でしたが、近年発生している東北や長野の水害の記憶が災害を身近に感じていただいたようでした。

●翌日16日は京田辺市中央公民館で35人が来所 大変賑やかに談笑が続く ここでは文化講演会が午後から開催されるというので少し早くから来られた人が展示会に足を運んでいただきました。ここでは時間に少々余裕があって落ち着いて展示物を読み取ってくださる人がかなりおられました。印象ではイタセンパラの復活についての質問が鋭くありました。また写真が掲示されていないことが残念でとの声がありました。新聞報道などで関心が深まっているように見えました。午後からは山村が折に触れ編集してきた「木津川はどんな川」のスライドを使って説明しました。スライドは230枚もあるので落ち着いた解説はできませんでしたが約2時間かかって終わった頃には閉展時間になっていました。前日に続いて朝から降雨だったので悪天候の連続の2日間でした。この日は連続展示会の最終回なのでスタッフの皆さんが11人も来ていただいて大変活発でした。スタッフの方の対応が上達され、説明が大変丁寧になり、すっかり腕をあげられました。まだまだ反省すべきことは多くありますが、皆さんの自信ある活動が素晴らしい解説者に成長されたことが最大の成果でありました。この3年間は、1月下旬から2月中旬までは5～6回連続の地域説明会を計画し、本会の趣旨である「自然を大切にする仲間の輪を広げる」を具体化する地域理解の機会として取り組みました。展示物130枚の張り出しや並べ替え、横断幕を使った会場装飾、椅子や机をうまく使った会場づくり、加えて炭焼体験の試行を行いながら連続する展示会を各地域で開催する期間でした。振り返ってみますと、よくもこれだけの大仕事を何事もなかったように実行できました。それも寒さ厳しく雨天が続く悪天候の中でのことでした。スタッフの皆さんの大奮闘が集中した取り組みでした。苦労様でした。

●ささやまミーティング事務局長の辻さんからお礼状が届きました。

近畿エコネットからの呼びかけに答えて、地域説明会や炭焼き、事務局会議やパソコン教室の取り組みが連続する中、兵庫県のささやま市でのミーティングに出席し、スライドを作り直してイタセンパラやカスミサンショウウオ、オオムラサキ、中聖牛・竹蛇籠の取組みの紹介に3人も出席して交流を深めました。エコネットの事務局局長から丁寧なお礼の手紙が届きました。御奮闘いただきました皆さん本当にご苦労様でした。

●木津川希少種植生調査管理業務の資料まとめに目途が付き始めました。

40カ所の生育植物の調査結果と40カ所15000㎡の除草作業の紙ベースでの資料作成と写真集での証拠書類のまとめ複雑で大変です。すぐ京都府の交響プロジェクト6事業の報告書作製などの提出が迫っています。同時に新年度での助成事業や補助金申請も重なります。里山の会の年度総会への準備・事業報告や決算、次年度の活動方針と予算が重なりつて会誌48号の原稿集めと編集と、息が抜けない状況となっています。そして4月早々にはぎっしり詰まったイベントの企画やチラシ作成と呼びかけや参加者募集と集約、まさに猫の手も借りたいと言ったことです。そこに高齢化による能力の劣化が追い打ちをかけてきます。本当に大変です。と言っているだけでも事が始まりません、まず第一歩から動き出さねば……ことが始まりません。頑張りましょう。それぞれが自分に応援をかけましょう。

●第24回環境と自然講演会を3月7日に開催します。多くの皆さんにお誘いの声掛けをお願いします。昨年の台風被害は相当なものでした。日本全国どこで起きても不思議でないと思うほど連続した災害の発生です。台風や温暖化、大雨に地震、それに安全神話に隠された原発事故、こうしたとき私たちはどう考えていけばいいのでしょうか、昨年は地震被害についてお話をお聞きしました。今回は京都大学防災研究所所長で大学の教授である中川一先生から「東北災害と長野災害から学ぶ」としてお話をお願いしました、また木津川は大丈夫か？についても伺いできるようお願いしました。先生は城陽市出身で現在も城陽市にお住まいです。大変ご多忙のところご無理をお願いしました。またとない機会ですので多数の皆様のご出席をお願いします。淀川水系で国の天然記念物であるイタセンパラが最後まで自然の中で生育していたところが木津川なのです。過日その生育したとされるワンドを検分するとかなりの条件が整っていることが判明しました。本会では今年から復元への取り組みを始めることにしました。そのスライド説明も上映いたしますので、ぜひとも多くの方々のご参加をお願いいたします。参加費無料です 別添資料をご参照ください。

●会誌48号の原稿を募集します。「調査研究報告」と「会員の広場」への投稿をお願いします。2020年12月に本会結成25周年記念としての催しの開催を決定しております。1996年の発足の頃の年間予算は30万円余りで印刷機もままならない時でした。コピー機も普及しておらず、パソコンも高額でワープロの全盛期でした。それでも里山の会は創刊号を発行し続けてきました。製本に20人以上の人海戦術で一日がかりで180ページ分を揃え集める総動員のイベントでした。表紙の白黒写真からカラー写真に進みました。今日ではパソコンがノートパソコンになり普及が進み事務局会議に出席する90%以上の人が使いこなせるように変わりました。そして年間予算金額は1000万円規模に到達しようかという段階に拡大しています。驚くべき成長を遂げています。この経過をご一緒に取り組んできた皆さんから、その25年の中で一つの思い出になる記憶に残る場面を思い起こし原稿をお寄せください。お待ちしております。期日は3月20日を締め切りと予定しております。是非お願いいたします。新しくご入会いただいている皆さんには、ご入会以後最も印象に残っている場面を書いてくださいますようお願いいたします。

●2月24日(月)9時集合 炭焼き釜で着火を行います。前回の学びから10時間程度で午後6時ごろには焚口の締め切りにこぎつけられると予定しております。会員諸氏の皆様にはそう何回もこの場面は訪れないと思います。煙突からの谷間にたなびく排煙景色は心が癒される何とも言えない農村風景の風物詩です。この瞬間を捉えてください。是非ご覧になってください。お待ちしております。天候に関係なく着火を時間に行います。

●里山農園の池にアカガエル卵の卵嚢が18日に発見されました。農園を代表する生き物の1種です。すっかり生息地(溜まり池)が減少しており、なかなか見かけられなくなってきている貴重な生き物です。これを狙ってアオサギが飛来してきます。少し防護してみようかと思えます。数年前には小さな池に沢山発見できましたが、大きく減少しています。

●木津川の一斉清掃16日が降雨のために23日に延期

各拠点に責任者が配置されていますので、きれいな川をめざす行動に一人でも多くのご参加をお願いします。昨年は680人の参加を頂きました。

●七草摘みの会を取り組んだと思っていたら、もう2月も終盤になってしまいました。光陰矢の如しです。そして年度末になり、更に忙しい3月になります。コロナウイルスに引きまわされています。何よりも手洗いを確実に行って、自らの健康に気をつけ、忙しい年度末を乗り越えていきましょう。